

# 今後ますます拡大 アクティブシニア市場を開拓せよ！

「アクティブシニアとは全国で約700万人いる団塊の世代を中心に、自分なりの価値観を持ち、年齢に関係なく仕事や趣味に非常に意欲的で、社会に対してもアクティブに行動するシニアのこと。彼らは、これまでの高齢者よりも活動的なため、消費傾向にも大きな変化が見られるという。今号は、アクティブシニアのニーズに対応すべく、いち早く動き出した企業の動きをレポートする。



## 特集1 今後ますます拡大 アクティブシニア市場を開拓せよ！

シニア市場が拡大を続けることは間違いないとさぞうだ。「平成26年版高齢社会白書」(内閣府)によると、わが国の総人口は平成25年10月1日現在、1億2730万人。これは、人口カーブのほぼ頂点に当たる。65歳以上の高齢者人口は過去最高の3190万人で、総人口に占める65歳以上人口の割合である高齢化率も過去最高の25・1%に達している。今後、総人口が減少していく中で高齢化率はさらに上昇。高齢者人口は「団塊の世代」(昭和22~24年に生まれた人)が65歳以上となる今年は3395万人となり、その後も増加していくと見込まれている。これに伴いシニア市場もより一層大きくなり、当然のことながらこの市場でのビジネスチャンスも増えてくる。今回は、シニア市場に造詣が深い村田アソシエイツ代表取締役の村田裕之さんから話を聞いた。

### 消費行動を読み解け

拡大を続けるシニア市場だが、「シニア市場を一つのマス市場と見なすと判断を誤る」と、村田さんは指摘する。

「人は年齢を重ねるにつれてニーズが多様化するのです。団塊の世代の多くは高度成長期には同じよう

## 多様化するシニアの 価値観をつかむことが 「売れる」カギ

村田 裕之  
村田アソシエイツ代表取締役

な収入を得て同じような生活スタイルを送ってきた。だから大量生産・大量流通・大量販売が成立しましたが退職年齢になって、大きな塊がばらけてきたのです」

60歳で退職した人もいれば、62、63歳まで働いた人、いまだ現役の人など、その境遇はさまざま。そのため現在の収入には大きな違いがある。さらに個々の身の上が生じる「消費行動に大きな影響を及ぼす五つの変化」もばらばらである。五つの変化とは、「加齢による肉体的変化」「本人のライフステージの変化」「家族のライフステージの変化」「世代特有の嗜好性とその変化」「時代性的変化(流行・生活環境)」のこと。村田さんは高齢者への仲間入りを迎えた団塊の

世代を、「団塊」の世代と呼んでいる。

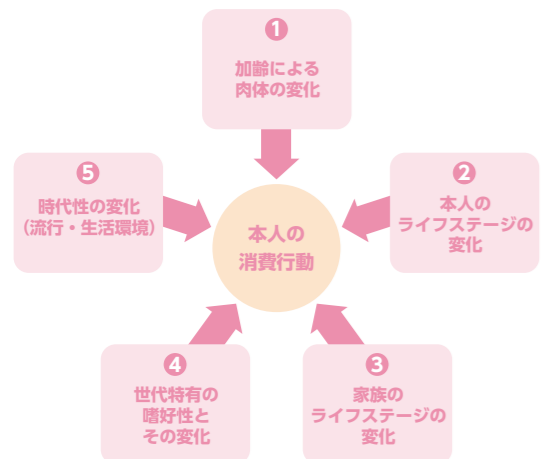
「彼らは多様な小グループに再編されつつあります。シニアマーケットを『多様な顧客価値でくくられるマイクロ市場の集合体』と解釈し、その価値が何なのかを見つけ出すことが成功の鍵となります」

シニアにとって消費の優先順位の高いものは、一般には不安、不満、不便の「不」の解消のための消費だという。その中でも「不安」に対する関心が高く、健康、経済、孤独の「3K」不安が代表的だ。「不」が生じる原因は需要側であるシニアと、供給側の企業の双方にある。シニア側の原因は先の「五つの変化」であり、企業側の原因は、シニアの変化に対応できていないた



村田 裕之 (むらた・ひろゆき)  
昭和62年東北大学大学院工学研究科修了。民間企業勤務後、仏国立ポンセジョセ工科大学国際経営学部修了。仏のエルフ・アキテーヌ(現トタル)勤務を経て日本総合研究所入社。同社創発戦略センター主任研究員などを経て、平成12年シンクタンク・ソフィアバンクの設立に参加。14年村田アソシエイツ設立、同社代表に就任。東北大学特任教授、シニアビジネス分野・高齢社会研究の第一人者として講演、新聞・雑誌への執筆も多数

### シニアの消費行動に大きく影響を及ぼす五つの変化



出典：村田アソシエイツ